

31 悪性脳腫瘍における高気圧酸素療法併用化学療法の有用性について

田中克之 吉田泰之 橋本卓雄

(聖マリアンナ医科大学脳神経外科)

【目的】悪性脳腫瘍における高気圧酸素療法(hyperbaric oxygenation : HBO)併用化学療法の治療効果について、統計学的手法を用いてその有効性を検証し、さらに今後の課題を検討した。

【対象・方法】対象は、2000年12月から2005年3月までに本学にてHBO併用化学療法を施行した脳腫瘍28例(glioblastoma 8例, anaplastic astrocytoma 15例, 脳幹部glioma 2例, その他3例)である。年齢は18歳～74歳(女性10例, 男性7例), 治療経過観察期間は5ヶ月～68ヶ月である。治療方法は、合志らの報告に基づき第1日目:carboplatin(CBDCA)300～400mg/m²静脈内投与後、HBO療法を施行、第2日目:HBOのみ施行した。HBO療法は、第一種高気圧酸素療法装置(SECHRIST社製MODEL2500B)にて化学療法1時間後から2.0絶対気圧下で60分間の100%酸素投与を行なった。加圧・減圧はそれぞれ15分間かけた。休業期間は原則6週間とした。CBDCA投与量および治療効果の判定は脳腫瘍取扱い規約に基づいた。

【統計学的解析】治療成績検討に用いた統計学的手法は、Kaplan-Meier法、Coxの比例ハザードモデル、ペアマッチング(マッチドペア法)である。

【結果】悪性神経膠腫においては、統計学的にも生存期間の延長を認めた(マッチドペア法Wilcoxon : p<0.05)。1年治療経過例で、GM 2例, AA 3例が腫瘍縮小効果を認めた。その他の腫瘍では3例中2例で腫瘍抑制効果を認めた。精神症状により、2例が治療中に中断した。全症例においてGrade 3以上の副作用は認めなかった。

【考察】交絡因子の影響をより少なく直接的に少ない症例数における治療群間の比較検討(マッチドペア法)を行なうことにより、明らかにHBO療法併用化学療法の有用性を検証できた。(Wilcoxon : p<0.05)。HBO併用化学療法は、悪性脳腫瘍の治療効果も優れ、副作用も少ないことから、今後、悪性神経膠腫において臨床上十分選択されるべき治療法であると思われた。

32 腰部脊柱管狭窄症に対する高気圧酸素治療

山口 喬¹⁾ 川島真人¹⁾ 田村裕昭¹⁾

永芳郁文¹⁾ 鈴木孝典¹⁾ 高尾勝浩¹⁾

宮田健司¹⁾ 丸尾 勉¹⁾ 加藤 剛²⁾

- 1) 医療法人玄真堂 川島整形外科病院
- 2) 東京医科歯科大学 整形外科

腰部脊柱管狭窄症は脊柱管に構造上の狭窄が生じた結果、馬尾・神経根が障害されて、特に間欠跛行という特徴的臨床症状を呈する症候群である。本症の原因は加齢による変性が占める割合が多く、近年の高齢化に伴い本症の罹患率は増加傾向にある。本症に対する治療法として観血的除圧術や、ブロック療法、PGE1製剤などの薬物療法、装具療法、理学療法などの保存療法が行われるが、高気圧酸素治療も低酸素状態にある組織の血行を改善することで神経症状の改善を促すとされ、本症に対して有効であると考えられる。その有効性を検討する目的で、平成17年1月から腰部脊柱管狭窄症と診断され高気圧酸素治療を行う患者に対して、治療開始前と30回後にそれぞれSF-36健康調査票とvisual analog scaleを用いた自覚症状、およびSLRテスト、徒手筋力テストでの他覚症状を調査し、比較検討した。本症に対する高気圧酸素治療の有効性を検討し、文献的考察を加えて報告する。